

大学名	長崎大学
講座、分野（教室）名	小児歯科学分野
主任教授	藤原 卓
講座の特色	
<p>長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学講座は、1983年（昭和58年）4月に、本学の臨床系講座として開講しました。2002年（平成14年）4月に第2代主任教授として藤原 卓教授が就任され、現在に至っています。2018年3月現在では医局員は教授以下5名の教官と医員1名、大学院生1名と小さい講座ですが、まとめよく、小児の顎口腔領域の問題に関しては、乳児期から、唇・顎・口蓋裂、食べる機能の障害に対する支援から齲蝕、歯周疾患、不正咬合の治療、さらには病院歯科としての医科歯科連携まで含めた、きめ細かな歯科医療を実践し、これらを担える人材の小児歯科医（日本小児歯科学会専門医）の育成を目指して奮励しております。</p>	
診療室の実際	
長崎大学病院	
設備	チェア数：3台専用（他に兼用10台）
	個室：2室（特殊歯科治療部と兼用）
スタッフ	受付：1～2名
	歯科衛生士：3名（兼務）
<p>本講座は医学部、歯学部が統合した病院の中の診療科として、小児科、形成外科、小児外科などの医科系診療科との医歯連携が特徴です。また離島が多いなどの長崎の地理的条件から、圏内唯一の第三次医療機関としての役割を担っており、全身麻酔下歯科治療も盛んに行っています。</p>	

大学名		長崎大学	
講座、分野（教室）名		小児歯科学講座	
主任教授		藤原 卓	
講座医局員研修プログラム責任者		釜崎陽子	
講座医局員研修プログラム修了時に資格要件を満たす学会認定医等の名称		①日本小児歯科学会専門医 ②日本障害者歯科学会認定医	
講座医局員研修プログラムの特色			
小児歯科学では、成長発育過程にある全ての小児を対象に、できるだけ低年齢から、齲蝕や歯周疾患の予防および治療、顎口腔領域の疾患に対する早期診断および対応を行い、顎口腔領域の機能と形態の健全な育成を目的としている。地方都市の中核病院内歯科としての医科歯科連携の、地域の拠点病院としての地域連携の役割を果たせるような歯科医師の育成を目指している。			
講座医局員研修プログラムの内容			
大学院生		臨床専門専修科生・研究生・レジデント・医員	
1年目	<b>新人研修（小児患者の一口腔単位での歯科治療）</b> 1、小児患者の治療に必要な実習 模型実習；小児用の顎模型上での、レジン窩洞形成、インレー窩洞形成、既成冠修復、コンポジット冠修復、クラウンループ作成、リンガルアーチ作成、床型保隙装置（アダムスクラスプを使う）作成を行う 2、臨床研修（各指導医より一例づつ新患配当を受ける）：実際の症例の診断と診療計画を立案し、指導医の監督のもと一連の治療を行う。一年目終了時には、一例について治療の流れをプレゼンテーションする 3、臨床で必要となる技工物の作成を行う 4、輪読会 <b>研究活動—学位論文作成準備（主に基礎講座）</b> 研究スキルの修得、抄読会など	1年目	<b>新人研修（小児患者の一口腔単位での歯科治療）</b> 1、小児患者の治療に必要な実習 模型実習；小児用の顎模型上での、レジン窩洞形成、インレー窩洞形成、既成冠修復、コンポジット冠修復、クラウンループ作成、リンガルアーチ作成、床型保隙装置（アダムスクラスプを使う）作成を行う 2、臨床研修（各指導医より一例づつ新患配当を受ける）：実際の症例の診断と診療計画を立案し、指導医の監督のもと一連の治療を行う。終了時には、一例について治療の流れをプレゼンテーションする 3、臨床で必要となる技工物の作成を行う 4、輪読会 <b>研究活動—臨床研究他</b>
2年目	<b>臨床研修（小児患者の一口腔内単位での歯科治療—咬合誘導まで要する症例）</b> 1、咬合誘導を行うに当たって必要な知識の修得と研修：臨床症例の模型分析、セファロ分析を行う。弾線付与のリンガルアーチまたは床型装置、クワドヘリックス、拡大床などの模型上での作成 2、新患配当（咬合誘導症例の新患配当を受ける）：実際の症例の診断と診療計画を立案し、指導医の監督のもと一連の治療を行う。終了時には、一例について治療の流れをプレゼンテーションする 3、臨床で必要となる技工物の作成を行う 4、輪読会 <b>研究活動—学位論文作成準備（主に基礎講座）</b> 実験、抄読会など	2年目	<b>臨床研修（小児患者の一口腔内単位での歯科治療—咬合誘導まで要する症例）</b> 1、咬合誘導を行うに当たって必要な知識の修得と研修：臨床症例の模型分析、セファロ分析を行う。弾線付与のリンガルアーチまたは床型装置、クワドヘリックス、拡大床などの模型上での作成 2、新患配当（咬合誘導症例の新患配当を受ける）：実際の症例の診断と診療計画を立案し、指導医の監督のもと一連の治療を行う。終了時には、一例について治療の流れをプレゼンテーションする 3、臨床で必要となる技工物の作成 4、輪読会 <b>研究活動—日本小児歯科学会での発表</b>

<p>3年目</p>	<p><b>臨床研修（小児患者の一口腔内単位での歯科治療—スペシャルニーズを有する症例-1）</b>  1、スペシャルニーズを有する患者についての必要な知識の修得と研修  全身麻酔下歯科治療（適応の判断、歯科麻酔科との連携、準備、治療、治療後の口腔機能管理）  2、新患担当（スペシャルニーズを有する患者のの新患担当を受ける）：実際の症例の診断と診療計画を立案し、指導医の監督のもと一連の治療を行う。終了時には、一例について治療の流れをプレゼンテーションする  3、輪読会  <b>研究活動—学位論文作成—中間報告</b>  <b>日本小児歯科学会での学会発表</b></p>	<p>3年目</p>	<p>臨床研修（小児患者の一口腔内単位での歯科治療—スペシャルニーズを有する症例）  1、スペシャルニーズを有する患者についての必要な知識の修得と研修  全身麻酔下歯科治療（適応の判断、歯科麻酔科との連携、準備、治療、治療後の口腔機能管理）  2、新患担当（スペシャルニーズを有する患者のの新患担当を受ける）：実際の症例の診断と診療計画を立案し、指導医の監督のもと一連の治療を行う。終了時には、一例について治療の流れをプレゼンテーションする  3、臨床で必要となる技工物の作成を行う  4、院内の産婦人科における母親教室と乳児健診  5、輪読会  <b>研究活動—日本小児歯科学会での発表</b></p>
<p>4年目</p>	<p><b>研究活動がメイン—学位論文作成</b>  臨床研修（小児患者の一口腔内単位での歯科治療—スペシャルニーズを有する症例-2）  1、全身疾患を有する患者についての必要な知識の修得と研修  周術期の口腔機能管理（易感染性、出血性素因、摂食機能障害などに対する配慮）  2、輪読会</p>	<p>4年目</p>	<p>臨床研修（小児患者の一口腔内単位での歯科治療—スペシャルニーズを有する症例-2）  1、全身疾患を有する患者についての必要な知識の修得と研修  周術期の口腔機能管理（易感染性、出血性素因、摂食機能障害などに対する配慮）  2、麻酔研修：歯科麻酔科で約3か月間麻酔研修を行う  3、唇・顎・口蓋裂を有する乳児に対する哺乳指導  4、食べる機能の障害を有する乳幼児の哺乳指導、離乳指導  5、輪読会  <b>研究活動—日本小児歯科学会での発表</b></p>
<p>卒後 1年目</p>	<p>臨床研修  1、麻酔研修：歯科麻酔科で約3か月間麻酔研修を行い、生体管理に関する知識の修得と研修  2、専門医試験の対策と準備  3、周術期の口腔機能管理（易感染性、出血性素因、摂食機能障害などに対する配慮）  4、唇・顎・口蓋裂を有する乳児に対する哺乳指導  5、食べる機能の障害を有する乳幼児の哺乳指導、離乳指導  6、輪読会  <b>研究活動—日本小児歯科学会での発表</b></p>	<p>5年目</p>	<p>臨床研修  1、専門医試験の対策と準備  2、周術期の口腔機能管理（易感染性、出血性素因、摂食機能障害などに対する配慮）  3、唇・顎・口蓋裂を有する乳児に対する哺乳指導  4、食べる機能の障害を有する乳幼児の哺乳指導、離乳指導  5、輪読会  <b>研究活動—日本小児歯科学会での発表</b></p>

<p>卒後 2年目</p>	<p>臨床研修 1、全身麻酔下歯科治療（適応の判断、歯科麻酔科との連携、準備、治療、治療後の口腔機能管理） 2、専門医試験の対策と準備 3、周術期の口腔機能管理（易感染性、出血性素因、摂食機能障害などに対する配慮） 4、唇・顎・口蓋裂を有する乳児に対する哺乳指導 5、食べる機能の障害を有する乳幼児の哺乳指導、離乳指導 6、輪読会 研究活動—日本小児歯科学会での発表</p>	<p>6年目</p>	<p>臨床研修 1、全身麻酔下歯科治療（適応の判断、歯科麻酔科との連携、準備、治療、治療後の口腔機能管理） 2、周術期の口腔機能管理（易感染性、出血性素因、摂食機能障害などに対する配慮） 3、唇・顎・口蓋裂を有する乳児に対する哺乳指導 4、食べる機能の障害を有する乳幼児の哺乳指導、離乳指導 5、輪読会 研究活動—日本小児歯科学会での発表</p>
-------------------	---	------------	---

大学名	長崎大学
講座、分野（教室）名	小児歯科学講座
主任教授	藤原 卓

